

いわき農林水産ニュース

(ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース)



1月号 発行 平成26年 1月 29日

〈東日本大震災関連〉



いわき地方の農林畜産物 モニタリング調査結果

福島県が行ったいわき地方の12月の農林畜産物の放射性セシウムモニタリング調査結果をお知らせします。

(表1) 農林畜産物の調査結果(12月末現在)

放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数	放射性セシウムが検出された品目と検体数		計
	基準値内で検出された品目と検体数	基準値を超過した品目と検体数	
8品目 26検体	4品目 42検体	0品目 0検体	12品目 68検体

調査した12品目68検体のうち、8品目26検体は、検査機器の検出限界値以下でした。品目としては、菌床なめこ(施設)、菌床しいたけ(施設)、ミズナ、ミツバ(施設)、ネギ、イチゴ(施設)、トマト(施設)、原乳の検体すべてにおいて検出が認められませんでした。

(表2) 1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

菌床なめこ(施設) 2	菌床しいたけ(施設) 2
ミズナ 1	ミツバ(施設) 1
ネギ 3	イチゴ(施設) 2
トマト(施設) 3	原乳 4

12月のモニタリング調査では、いわき地方において出荷が制限されているユズについて40検体を検査し、基準値を超過した検体はありませんでしたが、検出限界値以下が3検体、放射性セシウムが検出されたが基準値内であったのが37検体となったことから、12月のモニタリング調査全体では、基準値内で放射性セシウムが検出された検体数が多くなりました。

(表3) 基準値内で検出された品目と検体数

	ユズ	大豆	牛肉	ミカン
検体数	40	6	3	1
基準値内	40	6	3	1
内 100 μ g/kg以下	37	3	1	1
検出限界値以下	3	3	2	0

なお、出荷が制限されているいわき市産のユズについては、広域的に栽培されていることから、「解除可否確認検査」と「緊急時モニタリング検査」を並行して実施しております。

「解除可否確認検査」とは、出荷制限解除へ向けた手続きが可能かどうか確認するため県が独自に行う検査です。

1月に「解除可否確認検査」を行った結果、いわき市産のユズについて基準値超過が確認されたことから、出荷制限解除に向けた手続きは行われず、引き続き、ユズの出荷制限は、継続されています。

12月31日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、表4のとおりです。

(表4) 出荷制限及び出荷自粛品目(12月末現在)

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	野菜・根菜・芋類	無
	果物	ユズ
	穀類	クリ
	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ(野生のものに限る。)、わらび、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ
	畜産物	無
出荷自粛	山菜	さんしょう(野生のものに限る。)

また、昨年に引き続き平成25年産の米についても全袋検査を実施しており、12月末までの検査点数544,851点のうち、99.96%の544,624点が測定機器の測定下限値未満、227点が基準値内で検出が確認されましたが、基準値を超過しましたものはありません。

(表5) 玄米(平成25年産)検査状況(12月末現在)

	測定下限値未満(<25)	25~50	51~75	76~100	100超	計
検査点数	544,851	224	2	1	-	545,078
割合(%)	99.96	0.04	0.00	0.00	-	100.00

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま新発売。」の農林水産物モニタリング情報、平成24・25年産米については、「ふくしまの恵み安全対策協議会」で簡単に検索できますので、結果をご確認ください。

〈一般情報〉

3年ぶりに開催 県青年・女性漁業者交流大会

震災で中断していた「福島県青年・女性漁業者交流大会」が、3年ぶりに12月6日（金）、JA福島ビルで開催されました。本大会は、若い漁業者グループや女性グループによる魚食普及、漁業経営の向上などの取り組みについてそれぞれのグループが発表し、お互いにスキルアップすることを目的に開催されてきました。震災によってグループ活動が休止していたことから交流大会も中止されてきましたが、震災からの復旧が進むにつれて活動が活発となり、再開することになりました。

震災前は、審査の結果最優秀となった活動グループが全国大会に出場していましたが、今年については、県内でいち早く試験操業を開始し、風評対策などにも取り組んでいる相双漁協相馬原釜支所青壮年部が代表して全国大会に出場することになりました。この他5課題について中間報告があり、参加者も約80名と震災前以上の盛り上がりでした。

いわき地区からは、福島県漁協青壮年部連絡協議会いわき方部会による「東京海洋大学学園祭における首都圏の消費者等との交流について」と、いわき地区漁協女性部連絡協議会による「風評対策や浜料理の普及活動などについて」の発表がありました。

全国大会出場が決定した相双漁協青壮年部の活動は、県代表としてふさわしい内容でしたが、他団体の活動もすばらしく、さらに活動を継続し充実したものにすれば、全国大会レベルになるものと期待されます。このように若い漁業者や浜を支える女性グループの活動が活発になることは、福島県の漁業復興が進んでいることを示す明るい話題だと思います。



（いわき方部会の発表）



（発表者へ記念品が授与されました）



いわき中央卸売市場で初市

いわき市中央卸売市場の初市式が、花き部は1月4日（土）、水産部、関連事業者、青果部は5日（日）に行われました。

初市式には、市場関係者、国会議員、市議会議員など多数の来賓が出席し、清水市長のあいさつ、根本市議会議長の祝辞の後、参加者全員で手締めをして一年の活況を祈りました。

花き部では、バラやカーネーションなど色鮮やかな花々が競りにかけられました。また、青果部には、白菜や春菊、大根、いちご、みかんなどの野菜や果物で飾られた宝船が並び、競り人の威勢のよいかげ声に応じて卸売業者などが次々と商品を競り落とし、場内が活気づきました。

東日本大震災からの復旧・復興を後押しするためにも、生鮮食品等の安定供給が期待されます。



（初市式での清水市長あいさつ）



(威勢の良い競り)



ゼロ災で行こう！！ 林業労働安全衛生講習会開催

1月8日(水)、いわき市森林組合主催による林業労働安全衛生講習会が中央台公民館で開催されました。

この講習会は、いわき市森林組合が毎年開催しているもので、組合職員や作業班、関係事業体など約50名が参加しました。

最初に、田子代表理事組合長が、「新たな年となり、新たな気持ちで林業労働災害の防止に努めてもらいたい」とあいさつし、次にいわき農林事務所佐藤森林林業部長及びいわき市橋本林務課長があいさつしました。続いて、いわき労働基準監督署空閑(くが)安全衛生課長から「林業労働災害防止対策」について、市森林組合松崎参事から「いわき市森林組合における労働災害の現状」について講話があり、最後に参加者全員で「ゼロ災でいこう」を唱和し、講習会は終了しました。

林業労働災害の発生頻度は、作業環境等の条件から他産業と比べて高い状況にあります。今回の講習会を契機に新たな気持ちで安全意識の高揚と安全作業に努めてもらいたいと思います。



(労災を防ぐよう気を引き締めました)



平木材市場で初市 昨年同様、高値取引続く

1月9日(木)、いわき市内郷綴町にある(株)平木材市場において、平成26年初市が開催されました。

初市には、例年よりも多い買方、荷主等約140名の林業・木材関係者が出席し、齋藤社長、滝口買方組合理事長、藤田荷主組合理事長によるあいさつの後、今年一年の隆盛を祈念し、参加者全員で乾杯を行いました。

初市には、スギを中心とした素材約3,000^mのほか製品約1,500^mの優良材が入荷し、活気のある競りが行われました。昨今の好調な住宅着工等ともなう旺盛な需要もあり、一般材の引き合いが強く、昨年からの高値を維持し、スギ中目材では、前月をやや上回る1^m当たり約16,000円で落札されました。これは、前年比で1^m当たり約4,000円高い価格となりました。

冷たい風が吹く冬晴れの空のもとでしたが、熱い競りが行われ、明るい一年の取引始めとなりました。



(高値で取引された今年の初競り)



次々と開園 市内の観光いちご園

いわき市では、昭和40年代から、温暖な気候を活かしたいちご栽培が盛んに行われており、県内でも有数の産地を形成しています。

市内には、観光いちご園が3カ所あり、12月末から5月までおいしいいちごの摘み取り体験を行うことができます。

各いちご園で栽培されている品種は、県オリジナル品種の「ふくはる香」や「章姫」、「紅ほっぺ」などで、特に甘味がよく感じられる「ふくはる香」が子供たちに人気があります。

それぞれの観光いちご園で栽培している品種は異なりますので、この機会に観光いちご園巡りで味の違いを体験してみたいかがでしょうか。



(観光いちご園内)

	大野観光いちご園	アグリパークいわき観光いちご園	田人観光いちご園
場所	四倉町玉山	平下神谷	田人町旅人
開園時間	10:00～16:00	10:00～16:00	10:00～16:00
料金	大人1,200円 小人1,000円 幼児800円	大人1,500円 小人1,200円 幼児1,000円	大人1,000円 小人800円
お問い合わせ	0246-33-3434	0246-68-7203	0246-69-2448

(発行日時点での情報です。詳細は事前にお問い合わせください。)

大学生のイメージ良好 モニターバスツアーレポート 集計結果

昨年10月19日(土)、26日(土)に、首都圏の大学生を対象にした「いわきの今を見に行く！モニターバスツアー」を開催したところ、19日(土)は40名、26日(土)は30名の参加がありました。(詳細は、いわき農林水産ニュース11月号をご覧ください。)

参加した学生からは、モニターバスツアーに関するレポートを提出してもらったこととなっており、12月26日(木)までに寄せられた意見をご紹介します。

参加者の7割以上が関東地方出身で、今回のモニターバスツアーで初めて福島県を訪れたという声もありました。訪問前の福島県のイメージについて、参加者の半数以上が悪いイメージを持っていたと述べていましたが、そのうちの8割近くの参加者が、今回のモニターバスツアーを通して悪いイメージがよいイメージへ変化したと述べていました。

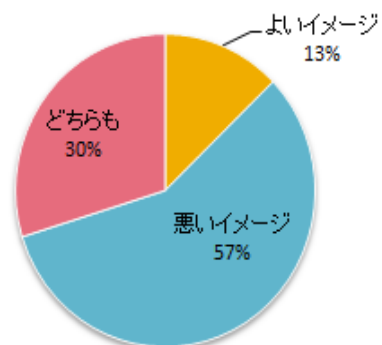
また、福島県の取り組みについておおむね好意的な評価がある一方、モニタリング情報などは知りたいと思う人しかたどり着けないと指摘する意見や、今後目指していく福島県の未来像を明示すべきとの意見もありました。

そのほか、今後の取り組みのアイデアとして、「既存の観光施設等を情報発信地として活用」「正しい情報の発信を強化」「メディアやSNS等との連携によるPR」「研究所等学術機関と連携した多面的情報公開」など、多様な考え方が提示されました。

また、参加者からは「福島県を応援していきたい」「福島県を好きになった」「また遊びに来たい」などの感想も数多く寄せられました。

いただいた意見は、今後の情報発信・風評対策の参考としていくこととしています。

(1) 訪問前、福島県についてどのようなイメージを持っていましたか。



よいイメージ

「農産物がおいしい」

「自然や歴史があるいいところ」

「観光地が多い」

Good!!

悪いイメージ
 「津波、地震、原発問題」
 「放射線の影響」
 「近寄ると危ない」
 「基準値を下回ったとはいっても高い値のものが流通している」

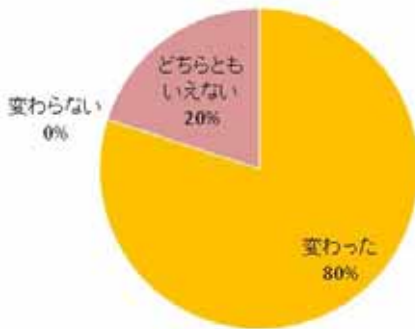
Bad...

(2) 訪問後、そのイメージは変わりましたか。

「よいイメージを持っていた」と答えた人「変わった」とは、よいイメージに加えて、未だ風評が払拭されていない等のマイナスの面も知り、両方のイメージを持ったという意味。



「悪いイメージを持っていた」、「どちらも持っていた」と答えた人の合計



(アクアマリンパークにて、19日)



(とまとランドいわきにて、26日)

〈コラム〉



食品表示のマメ知識

食品の表示は、消費者にとってその食品の情報を知る重要な情報源であり、衛生上の危害防止を図るとともに、食品選択に役立っています。

今回から3回にわたり、JAS法に基づく食品表示制度について説明します。

第1回目は「生鮮食品」です。スーパーや直売所に並んでいる野菜・果物、肉類及び鮮魚介類には、名称、原産地の表示が義務付けられています。例えば、いわき市内で栽培し収穫されたトマトを陳列・販売する場合、「トマト・福島県産(いわき市産でも可)」と表示します。表示方法としては、陳列してある品目ごとに名称と産地を併記した立て札を置いたり、値札に併記したりする方法がとられています。

原発事故に伴い、消費者はこれまで以上に原産地への関心が高まっていますので、営業者においては、生産者や仕入れ先からの伝票等に記載してある名称や原産地をよく確認のうえ、適正に表示することが求められます。

表示についての不明点やラベルの相談は、いわき農林事務所企画部(0246-24-6152)までお問い合わせください。

〈お知らせ〉

「『食』と『ふるさと』安全・安心シンポジウム」開催！！

「ふくしまからはじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」の一環として、「『食』と『ふるさと』安全・安心シンポジウム」が開催されます。これは、県民のみなさんに福島県農林水産業の現状と食の安全性について理解してもらうことを目的としています。

いわき地域からは、農林水産祭(園芸部門)で天皇杯を受賞した(有)とまとランドいわきの元木寛専務が、パネルディスカッションにパネラーとして出席します。

興味がおありの方は、ぜひご参加ください。詳細は、いわき農林事務所HPにも掲載してあります。

- 1 日 時 平成26年2月8日(土)午後1時~
- 2 場 所 ホテルハマツ 3階(左近、橋) (郡山市虎丸町3-18)
- 3 対象者 一般消費者(参加費無料、事前申込が必要)
- 4 内 容
(1) シンポジウム(基調講演、パネルディスカッションなど)
(2) 安全・安心な農林水産物の提供などに関する展示
- 5 申込方法
県農林企画課まで電話、メール、FAXにより申し込んでください。



「いわき地域産業6次化ネットワーク交流会」 参加者募集！！

- 1 日 時 平成26年2月21日(金)午後3時~
- 2 場 所 福島県いわき合同庁舎 4階大会議室
- 3 内 容
(1) 講演「6次化商品の販売事例と地域活性化の手法」
講師：NPO法人素材広場 理事長 横田純子氏
(2) 地域産業6次化へ向けた取組報告
ア ヘルシーベジ【広葉マコモ】の丸ごと活用プロジェクト取組報告
イ クラスター分科会の取組報告(いわき産農産物を使用して試作したジェラート)
(3) 試食交流会
ヘルシーベジ【広葉マコモ】を使ったお菓子及びいわきの農産物を使ったジェラートを試食しながらの交流会
- 4 参加申込方法
「いわき地域産業6次化ネットワーク交流会参加申込書」をいわき農林事務所HPよりダウンロードし、2月14日(金)までに申し込んでください。

食彩ふくしま地産地消推進店のメニューの紹介

地産地消推進日（2月は8日（土））に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介しますので、ぜひご賞味ください。

なお、内容は変更される場合がありますのでご了承ください。

また、営業日（メニューの実施日）については、事前にご確認ください。

いわき食彩館株式会社 スカイストア(平字一丁目)

1 推進日を含む毎日のメニュー

地産地消メニュー： 注文弁当 日替わり弁当 惣菜

説明：いわき、福島県産の安心・安全な食材（2月はハウレンソウ、レンコン、ブロッコリー等）をふんだんに使用しています。

2 推進店からのお知らせ

「話題のシェフがつなくいわき旬の食材料理2013」を開催します。

（2月11日（火・祝）、『フランス料理店 ラ・ロシェル』（東京）

総料理長 工藤敏之 氏）

いわき農林事務所からのお知らせ

ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧

2 イベント情報

3 農林水産物モニタリング情報

(1)モニタリング情報検索

(2)出荷制限等一覧表

「東日本大震災」

及び「原発事故」からの

復興のために！



皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地

(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>

いわき農林水産ニュース

